

ハウレンソウ事例①

■岩手県八幡平市・久慈市

ハウレンソウ産地で名高い岩手県八幡平市。旧西根地域でハウレンソウを栽培しているYさんは長年コフナを使用しています。土に弾力が出て、病気もほとんどなくなり、害虫の被害もなくなったそうです。土壤消毒は行っていません。寒締めハウレンソウを除き、秋終了後にもコフナを投入し、残根の分解・腐植化、地力の回復を図っています。

◆年間サイクル											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
【普通栽培】											
播種・収穫(4回転)											
終了後、コフナ・生ワラ・堆肥施用											
【寒締めハウレンソウ】											
12月～3月上旬まで収穫											
播種											
収穫開始											
★											
収穫後、コフナ・堆肥・元肥施用											
春の1作目を播種する											

Kさんは収穫後の残根で以前は病原菌密度が高かったこともあり、コフナを10年以上使用しています。土が柔らかくなり、収量も安定しています。ハウレンソウ栽培で気を付けている点は堆肥・水管理・菌バランス。堆肥の腐熟促進のために堆肥1tに対してコフナ1袋を混和。また土壤消毒後には60坪あたりコフナ1袋を投入しています。品質が安定しており、長く続けられる一番の秘訣だそうです。

Sさんは60坪ハウス×35棟×平均4回転でハウレンソウを栽培。毎年の薬剤消毒が煩わしく感じて、長い目でみると土づくりのほうが土にもハウレンソウにも良いのではと思い立ち、7年前よりコフナを導入しています。自家製コフナ堆肥とコフナを組み入れています。回転数よりも1回あたりの収量安定を大事にしており、4～12月の収穫期間、真夏も収量を落とさずに出荷しています。近年は15棟分でコフナの太陽熱処理も実施しています。



Fさんは毎作播種前にコフナ・バイオマス・腐植を使用していますが、使用前までは1～6作までは平均約20箱が、使用開始してから約30箱となりました。また以前は3作目から収量が落ちていたのも今では5～6箱多く出荷できるようになったそうです。

(30坪ハウスの出荷数一例)

1作目	2作目	3作目	4作目	5作目	6作目
42箱	35箱	30箱	25箱	25箱	25箱